



報道資料

令和6年5月22日

王寺町役場

担当: 岡島永昌(地域交流課文化資源活用係)
北葛城郡王寺町元町1丁目9番28号

TEL 0745-72-6565

Mail bunkazai@town.oji.nara.jp

「鉄道のみち王寺」のデゴイチ 町指定文化財に

令和6年3月18日付けで、王寺町の舟戸児童公園に静態(動かない状態で)保存されるD51形蒸気機関車895号機を王寺町指定文化財に指定しました。奈良県下で保存される蒸気機関車が文化財指定されるのは初めてのことで、2026年2月11日の町制100周年を見据え、さらなる保存・活用を図っていきます。

D51形蒸気機関車895号機の写真を含む詳しい情報は、王寺町ホームページに掲載しています。



■ 蒸気機関車とは

火室で石炭を燃やして燃焼ガスを起こし、罐(ボイラー)内の水を熱して蒸気を発生させ、蒸気圧によるピストンの往復を動輪の回転に変えて走行させます。発生させた蒸気は、動輪回転の他にも給水ポンプ、給水温め器、発電機、空気圧縮機などに幅広く利用されます。

■ D51形とは

Dは動輪の軸が4本あることを意味します。D51形は大型貨物機関車として昭和11年(1936)に開発され、約10年間で蒸気機関車の各形式のなかで最も多い1,115両が製造されました。その895番目に製造されたのがD51形蒸気機関車895号機です。

■ D51形895号機の履歴

昭和19年(1944)5月10日に日立製作所によって製造され、柳井機関区(山口県)、岩国機関区(山口県)、広島第二機関区(広島県)、津和野機関区(島根県)、鳥取機関区(鳥取県)、福知山機関区(京都府)と転属し、昭和46年(1971)4月5日から廃車の同47年11月7日まで奈良運転所に配置されました。奈良運転所配属中は関西本線を走り、現在の舟戸児童公園に設置されたのは昭和48年4月のことです。

■ 895号機の特徴

罐上の集煙装置と重油併燃装置が良好に残っています。

集煙装置は、トンネル内で煙が運転席に入り込まないよう後方に排出させるもので、通常は同装置の蓋を開けて煙を上方に排出させますが、トンネルに入る際に空気シリンダで蓋を閉めて後方に誘導します。これによって、機関士・機関助手が一酸化炭素中毒になるのを防ぎます。

重油併燃装置は、走力を高めるのに火室内に重油を噴射し、効率よく燃焼させて蒸気圧を安定して上げます。これによって、カマ(ボイラー)の調子を最大限に整えて臨まなければならない関西本線の加太越えでの機関助手の心身負担がなくなりました。

■ 指定の理由

D51形蒸気機関車は、全国で約170両が静態または動態で保存されています。895号機は実際に王寺駅を含む関西本線を走行した車両で、走行に役立った装備を残したまま保存されています。895号機をつうじて、王寺町が王寺駅の開業を契機に、鉄道のみちとして大きく発展した歴史文化を学ぶことができると同時に、SLブーム全盛であった昭和46年(1971)9月26日、湊町・伊賀上野間を走ったイベント列車JC赤トンボ号として三重連の先頭に立って王寺駅を走る姿が写真で記録されるように、明治時代以来の鉄道文化であった蒸気機関車を王寺町において伝えるのに最もふさわしい車体です。高齢化でやむなく断念されたものの、令和2年(2020)5月まで王寺鉄友会によって毎月、清掃整備されてこられた先輩たちの思いを継いで、これらから先も50年、100年と保存していきます。